

報告番号	甲 口 甲口保	氏名	益井 孝文
	乙 口 第 403号 乙口保 口 修		
審査委員	主 査 羽地 達次 副 査 市川 哲雄 副 査 宮本 洋二		

題 目 Gross anatomical classification of the courses of the human sublingual artery  
(ヒト舌下動脈の走行経路に関する肉眼解剖学的分類)

要 旨

歯科用インプラント手術時の血管損傷が臨床的に重要な問題となっており、口腔底に分布する血管、とくに舌下動脈への関心が高まっている。

本研究はヒト舌下動脈の走行経路の分類を目的とするもので、申請者らは日本人53遺体101側を用い、舌動脈、顔面動脈近位部、および同部より分枝するオトガイ下動脈の走行を肉眼解剖学的に調べるとともに、30遺体50側では舌動脈、顔面動脈、オトガイ下動脈、舌下動脈の各起始部の太さも計測した。

舌下動脈の走行経路は、同動脈が舌骨舌筋の内側または外側を通るカテゴリーMとL、および顎舌骨筋を貫通するカテゴリーPの3つのカテゴリーに分類した。カテゴリーMは舌動脈分布が教科書通りの1型のみを含み、61側にみられた。カテゴリーLは17側にみられ、舌深動脈は舌動脈の延長として舌尖に向かい、舌下動脈はオトガイ下動脈起始部付近で顔面動脈やオトガイ下動脈より生じ、舌骨舌筋の外側から舌下部に達した。カテゴリーPは19側にみられ、舌深動脈は舌動脈の延長であったが、舌下動脈はオトガイ下動脈遠位部より分枝後、顎舌骨筋を貫いて舌下部に達した。カテゴリーLとPは、舌下動脈と舌深動脈間の交通の有無により2型に分けた。残り4側は舌動脈の変異で、舌下動脈の走行分類にあてはまらなかった。

カテゴリーMを通常型、カテゴリーLとPを非通常型とし、出現率の男女差と左右差、および両側性出現率を調査した。出現率には男女差があり、女性では通常型が非通常型より多く、男性では非通常型が女性より多くみられた。左右差では右側で非通常型がわずかに多くみられた。両側性出現率は両型でともに高く、非通常型でも両側性に多く出現した。舌下動脈を枝としてもつオトガイ下動脈は、もたないものよりも有意に血管径が太かった。

本研究での舌下動脈走行経路の分類はより安全な歯科インプラント手術のみならず、舌下動脈損傷による重篤出血時の口腔外動脈結紮部位の決定や口腔底血管造影像のより正確な読影に大きく役立ち、歯科医学の発展に寄与するところが多大であると考えられた。

よって、博士(歯学)の学位授与に値すると判定した。